

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 11 日作成)

小委員会名	換気・通風小委員会		主 査 名：山中俊夫 就任年月：2011 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (空気環境運営委員会)		委員長名：佐土原 聡 主 査 名：倉渕 隆
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室内気流、換気、通風に関連した諸問題のうち、全国調査や翻訳、文献調査、規準作成などについての議論と必要に応じた研究グループの設置 ・ 作業ワーキングの設立、運営、調整 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：山中俊夫 (大阪大学) 幹事：甲谷寿史 (大阪大学) 委員：吉野 博 (東北大学)、飯野由香利 (新潟大学)、長谷川麻子 (熊本大学)、大場正昭 (東京工芸大学)、山本佳嗣 (日本設計)、倉渕 隆 (東京理科大学)、後藤伴延 (東北大学)、清田誠良 (広島工業大学)、赤林伸一 (新潟大学)、遠藤智行 (関東学院大学)、桃井良尚 (大阪大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	(1) 学校空気環境・換気マニュアル WG：学校空気環境および空調・換気設備についての維持管理マニュアルの作成 (2) 自然換気設計 WG：設計者用の自然換気・通風設計入門書の作成 (3) 気密性能 WG (2012 年度新設)：気密性能に関する実態・研究の動向調査とデータベース作成、ガイドラインの作成 (4) 建物換気理論 WG (2012 年度新設)：換気計算法や換気測定法の基礎の整理と最新手法の整理及び「Building Ventilation」の翻訳書の出版		
2012 年度予算	172,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. マニュアル作成作業・加筆修正作業のほか、国際会議でのワークショップ共催、小学校での実測調査およびその結果の考察 2. 実務者のための自然換気設計ハンドブックの執筆と内容検討 3. 住宅の気密性能の実態や測定法及び住宅設備機器に及ぼす影響、オフィスビルにおけるダクトの気密性能等に関する国内外の文献調査 4. Building Ventilation の翻訳内容の検討及び基礎理論の調査
委員会活動の問題点 ・ 課題	WG 相互の情報交換と成果の共有

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2012 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 30px; height: 30px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">A</div> <div>B</div> <div>C</div> <div>D</div> </div>
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>(1) 学校空気環境・換気マニュアル WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成度：マニュアル作成作業・加筆修正作業のほか、国際会議でのワークショップ共催、小学校での実測調査およびその結果の考察 ・WG 活動の総合評価：A <p>(2) 自然換気設計 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成度：ハンドブックの執筆と内容検討を行った ・WG 活動の問題点・課題：「実務者のための自然換気設計ハンドブック」を 2013.3 に査読・脱稿し、2013.5 に出版社に引渡し、発刊を行う。2013.7 発行、2013.8 にシンポジウム開催予定である。 ・WG 活動の総合評価：A <p>(3) 気密性能 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成度：住宅における気密性能の実態や測定法及び住宅設備機器に及ぼす影響、オフィスビルにおけるダクトの気密性能等に関して、国内外の文献調査を実施した。 ・WG 活動の問題点・課題：国内における近年の測定事例数の増強、経年による気密性能の変化、エネルギー消費に及ぼす影響等、調査すべき事例は未だ残されているため、2013 年度の WG に引き継ぐ予定である。 ・WG 活動の総合評価：A <p>(4) 建物換気理論 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成度：“Building Ventilation”の翻訳内容について検討し、基礎理論の調査を行った。 ・WG 活動の問題点・課題：翻訳内容が膨大であるために、1 年間では全ての検討を終了できず、設置当初から複数年での計画を立てており、2013 年度設置 WG に引き継ぐ予定である。 ・WG 活動の総合評価：C

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。